

長野県松本市

松本城下町跡

HONMACHI

本町 第5次

ISEMACHI

伊勢町 第19・21・22次

NAKAMACHI

中町 第1・2次

MIYAMURAMACHI

宮村町 第1次

— 平成10・11年度試掘調査報告書 —

2000. 3

松本市教育委員会

例 言

1. 本書は、平成10・11年度に実施した松本城下町跡本町、伊勢町、中町および宮村町の埋蔵文化財試掘調査報告書である。
2. 本調査は中央西土地区画整理事業の個人店舗建設及び城下町内の個人住宅建設に伴う試掘調査で、国庫補助事業として実施したものである。
3. 本調査および本書の作成は、松本市教育委員会が実施した。
4. 平成10年度は2件、平成11年度は5件の調査を実施した。このうち、本文では本町第5次調査を報告する。
5. 各調査の担当者は、以下のとおりである。
伊勢町19次：村田昇司、中町1次：村田昇司、荒木龍、堀久上、以上平成10年度
本町5次：澤柳秀利、小山高志、宮村町1次：澤柳秀利、小山高志、中町2次：澤柳秀利、小山高志、伊勢町21次：赤羽裕幸、荒木龍、伊勢町22次：澤柳秀利、小山高志、以上平成11年度
6. 本書の執筆・編集は澤柳秀利が行った。
7. 本書の写真撮影は、現場を調査担当者、遺物を宮嶋洋一が担当した。
8. 遺構番号は、各検出面ごとに1から付してある。
9. 出土遺物・図面・写真類は、松本市教育委員会が所有し、松本市立考古博物館（〒390-0823 長野県松本市大字中山3738-1 Tel 0263-86-4710）が保管している。

調査体制

調査団長	松本市教育長 守屋立秋(～H10.6.30) 舟田智理(H10.7.1～H10.10.15) 竹淵公章(H10.11.1～)
調査担当者	〈平成10年度〉 村田昇司 〈平成11年度〉 澤柳秀利、小山高志、赤羽裕幸、荒木龍、堀久上
調査員	今村 克、三村 肇 〈平成10年度〉 入山正男、大月八十喜、岡村行夫、清沢智恵、奥喜義、小松正子、齋藤政雄、中村恵子、中村地香子、中谷高志、布山洋、堀久上、横山清、吉田勝渡、渡邊順子 〈平成11年度〉 荒井留美子、飯田三男、入山正男、岡村行夫、久保田登子、小松正子、齋藤政雄、清水陽子、田中一雄、中村恵子、二木一男、布野和嘉夫、布山洋、待井敏夫、宮田美智子、横山清、矢崎寛子、山崎照友、渡邊順子

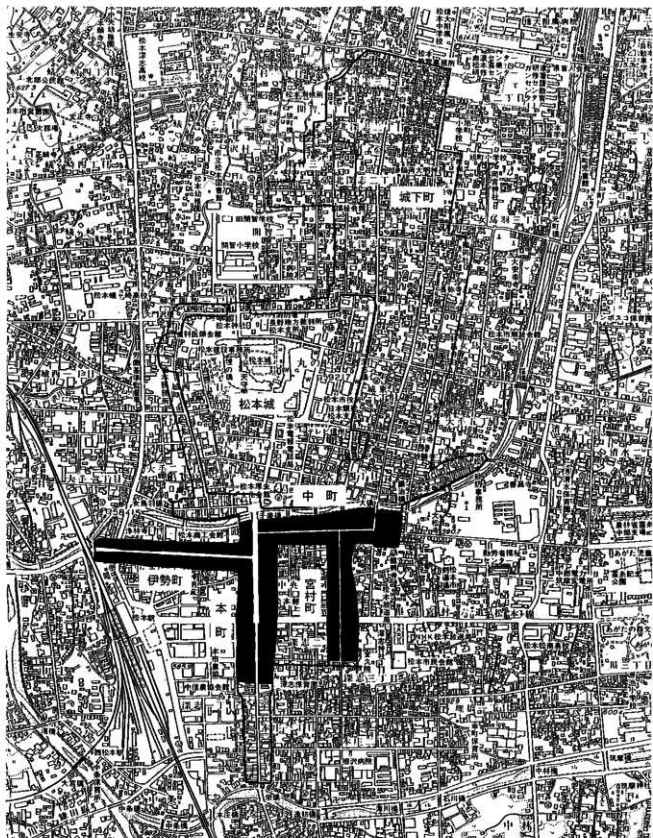
事務局

〈平成10年度〉

松本市教育委員会：木下雅文（文化課長）、熊谷康治（文化課長補佐）、村田正幸（文化財担当係長）、久保田剛、近藤 潔、上條まゆみ

〈平成11年度〉

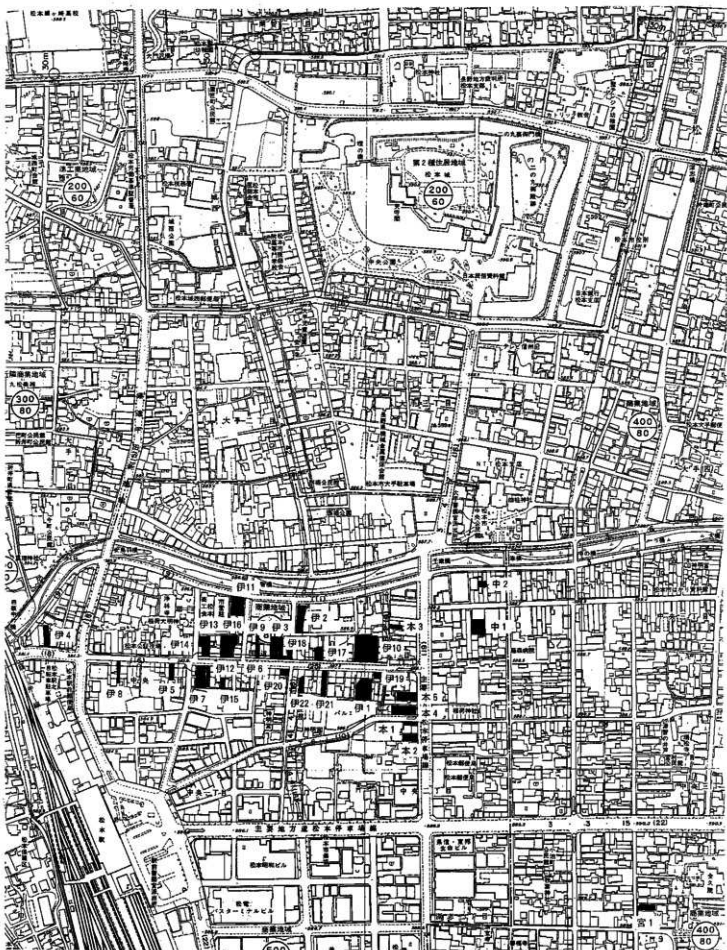
松本市教育委員会：木下雅文（文化課長）、熊谷康治（文化課長補佐）、松井敬治（文化財担当係長）、久保田剛、武井義正、酒井まゆみ（旧姓上條）



黒塗り部分が本町・伊勢町・中町・宮村町の範囲

S-1:12,500

第1図 松本城と城下町



伊1～伊22：伊勢町調査地点
 本1～本5：本町調査地点

中1～中3：中町調査地点
 宮1：宮村町調査地点

S=1:5,000

第2図 調査地の位置

1. 平成10・11年度松本城下町の発掘調査概要

松本城下町跡の試掘調査は、平成10年度に2件、11年度に5件実施した(第1～4表)。これらの調査のうち、3件(本町5次、伊勢町19・21・22次)は区画整理事業地内の個人店舗建設に伴う緊急発掘調査、残りは城下町内の個人住宅建設に先立つ緊急発掘調査で、国庫補助事業として実施した。これらの調査箇所は、松本城下町跡の本町・伊勢町・中町・宮村町にあたる。各調査地点の概要は以下のとおりである。

本町第5次調査：17世紀初頭～19世紀後半とみられる整地層6面を確認。竹管(5面)、木樋(3面)の水道施設を検出した。竹管は集水井戸で分水し、2軒の屋敷内へ通水しているのを確認。

伊勢町第19次調査：16世紀後半～19世紀後半とみられる整地層6面を確認。第4面から出土した金箔煙管には水野氏の家紋である花沢渦が刻印されていた。またこの調査では6検出面(地表下2m)から16世紀後半の松本城築城時期にあたる遺構が中世の渡来銭を伴って検出された。

伊勢町第21次調査：16世紀～19世紀とみられる整地層5面を確認。屋敷地2軒分ほぼ全体を調査し得た。全般的に遺構の残存状況は良好で、各面で埋設桶が多くみられた。第5面からは、城下町整備以前の町並みとみられる遺構を確認、その下層で確認した流路から青磁、山茶碗等中世遺物が出土し、更に古い時期の面があると考えられる。

伊勢町第22次調査：18世紀～19世紀とみられる整地層6面を確認。敷地南半部のみの為、建物部分の調査は殆どできない。裏手にて屋敷境の杭列、ゴミ穴を検出。中庭とみられる部分で池址と推定される遺構を検出した。6面以下は砂礫層であり、遺構の存在は想定できない。

中町第1次調査：18世紀～19世紀までの整地層6面を確認。原敷地裏側部分のみの調査となったが、5面以下の木樋及び井戸といった水道施設の残存状況は良好で、作り替えを行った様子が明らかとなった。また4面では軟弱な地盤に対応した基礎を有する建物址を確認することができた。

中町第2次調査：原敷地裏側部分のみの調査となった。地表下160cm程までは攪乱を受けている。120cm下の1面残存部分を調査したのみで、建物基礎とみられる遺構を確認したが明瞭ではない。他に埋没した井戸を確認した。なお1面より下は砂礫層が220cm以上堆積している。

宮村町第1次調査：下級藩上屋敷地の調査、17世紀～19世紀とみられる整地層5面を確認。各面で建物基礎を確認するが攪乱を受けており、良好な状態ではない。江戸時代遺構の下層より土師器高杯が出土。また湿地性堆積を掘り込んで作られた古墳時代前期(4世紀)の住居址を確認する。この周辺で古墳時代遺構の確認は初めて。遺跡の範囲は確定できないが、この周辺にも遺構が存在するとみられるため、新発見の遺跡として天神西遺跡とする。

第1表 本町調査一覧

調査回数	所在地	原因事業	調査期間	調査面積(㎡)
5	松本市中央2-2-20	区画整理個人店舗建設	H11. 7/28～8/13	95.7(×6面)

第2表 伊勢町調査一覧

調査回数	所在地	原因事業	調査期間	調査面積(㎡)
19	松本市中央2-2-14	区画整理個人店舗建設	H10.12/1～12/21	60(×6面)
21	松本市中央2-2-9	区画整理個人店舗建設	H12. 1/6～2/18	110.4(×5面)
22	松本市中央2-2-7	区画整理個人店舗建設	H12. 1/11～1/27	173.8(全6面)

第3表 中町調査一覧

調査回数	所在地	原因事業	調査期間	調査面積(㎡)
1	松本市中央2-5-15他	城下町内個人住宅建設	H11. 3/17～4/9	76(×6面)
2	松本市中央2-4-14	城下町内個人住宅建設	H12. 1/4～1/5	8.5

第4表 宮村町調査一覧

調査回数	所在地	原因事業	調査期間	調査面積(㎡)
1A	松本市深志3-7-47	城下町内個人住宅建設	H11. 7/12～7/16	18(全2面)
1B	松本市深志3-7-47	城下町内個人住宅建設	H11.12/7～12/11	12(×4面) + 7

2. 本町第5次調査の概要

(1) はじめに

本調査は、松本市中央2丁目2-20において中央西区画整理事業に伴って実施した緊急発掘調査である。調査期間は、平成11年7月28日～8月13日、調査面積は95.7㎡×6面を測る。調査地一帯は、松本城下町跡の町人地である本町にあたる。この本町は、城下町13町のうち親町3町と呼ばれる本町・中町・東町の中でも最も古くから発展していったと考えられ、享保10年に編纂された「信府統記」に、「前略…天正十三年より今の宿城地割して、同十五年までに、市辻・泥町辺の町屋残らず本町へ移移し…後略」と記載されているように、16世紀末の松本城以前の深志城時代に小笠原貞慶によって本町の町割りが行われたものと考えられる。このため、江戸時代を通じて明治期まで問屋などが集中する商業活動の中心地であったと考えられる。

(2) 発掘調査の結果

①層序 (第8図)

今回の調査は、開発が及ぶ現地地表下160cmまでの調査となったため、最下層までの確認はできなかった。面的には1面を除き2～7面を調査した。

②検出された遺構

今回の調査で発見された遺構は、建物址17棟、水道遺構2条、土坑11基、ピット13箇、集水井戸3基、石組遺構2箇所である。これらについて、各面ごとの主要な遺構について述べていく。

1. 2 検出面：建物址が各々2棟確認されるのみである。いずれも昭和40年の再開発の際に大きく攪乱され、1検出面(以下文章内1面)の第1号建物址(以下1建)は検知石が4個とその基礎を残すのみであり、2面の1建は布掘り基礎の一部が残存するにとどまっている。

3 検出面：建物址3棟、土坑2基、ピット1個、石組遺構1ヶ所、水道遺構1条を検出した(第3図)。この面も昭和40年の再開発の際に攪乱され、残存状態は良好ではない。建物址は本町寄り南側から2建(礎石立ち)が検出されている。木樋1は、本町4次調査において確認されたものと同様の構造である(松本市文化財報告No.132にて既報)。本町西側に面した2軒の屋敷境に掘られた水道施設で、後述する竹管1の直上から検出したことから、古い竹管を取り除かず、整地によって嵩上げされた生活面から掘り込まれ設置されていることがわかった。ただしほとんどは攪乱によって失われ、木樋の残存部分は少ない。木樋の規模は、外径が22～24cm、内部導水路は、9cm(3寸)角である。集水井戸(1土)は上部が攪乱によって壊され、木樋との結合部分も失われている。井戸の底部のみが残存し、内部には桶枠の部材が散乱していた。

4 検出面：建物址5棟、ピット2個を検出した。建物址のうち3建と4建、5建は、本町寄りから、水道施設を挟んで検出された。北側の3建は礎石立ちの建物で7個の礎石を検出した。南側の4建、5建は同一の建物で、検知石による東西に長い土蔵的な建物とみられる。

5 検出面：建物址3棟、土坑3基、ピット7個、水道遺構1条を検出した(第4、5図)。建物址のうち3建と4建の2棟の礎石が、4面と同様本町寄りから、水道施設を挟んで検出された。竹管1は、木樋1と同様本町西側に面した2軒の屋敷境に掘られた水道施設である。当初は上部にわたされた木の板を木樋上面と考えて調査したが、下部より継手と竹管が確認され、上部の板は水道保護用の蓋の用途を有するものであることがわかった。規模は竹管の直径は6～7cm(2寸)で、攪乱によって失われている部分も含めて東西管で12m、北分水管、南分水管それぞれ1mが残存する。本町側から引水したとみられ、東から西へ向かって緩やかに下り、継手によって高さを調節されて集水井戸1に一旦溜まり、そこからオーバーフローした水が、北分水管、南分水管によって2軒の屋敷内に引き込まれて各々の集水井戸(※北側のみ確認している(集水井戸2)に溜まる仕組みとなっている。継手は東西管で12箇確認され、攪乱中に1個想定される(集水井戸1から東へ向かってJ1～J13)。また北分水管、南分水管に1箇所ずつ据えられる(JN1、JS1)が、南分水管は更に南へ延びていく可能性がある。設置の間隔は凡そ70～100cm(2～3尺)おきである。継手の規模は、概ね上底25cm、下底45cm、高さ25cm、厚さ10cmの台形板で中央に15～20cmの竹管用穴が穿たれている。継手のうちJ4、J9、J11は竹の継ぎ目となるため粘土を竹管の周囲に貼り防水処理を施しているのが確認された。これらは竹管廃棄後も撤去されなかったため残存した。

6 検出面：建物址3棟、土坑3基、ピット7個を検出した(第6図)。建物址(建1、建2、建3)は同一の礎石立ち建物である可能性がある。建物址の東側から検出した第4号土坑(以下4土)はゴミ穴であり、多量の陶磁器片を出土した。通常ゴミ穴は敷地内の建物裏手の空間に設けられているが、本址は建物址範囲の中に掘り込まれている。出

土した遺物の多くが被熱しており、また覆土中に焼土を含んでいることから、火災後に、焼けた不要財を投棄したのではないかと考える。裏手に当たる2土は、方形の掘り方の中に角材を組んで上にゴザ或いは畳表を敷いてあるものである。5面の集水井戸に切られているため全体の規模については不明であり、また用途についても不明である。

7検出面：全面的に調査をすることはできなかった。トレンチによって土坑が検出されたのみである。

水道遺構：今回の調査で確認された上水道に関連した施設は、前述のように3・5面から木樋・竹管・継手・集水井戸などの遺構が検出された。3面からは、木樋により導水されて集水井戸に溜まる施設（木樋1）と、5面から、竹管によって導水され、一旦集水井戸1に溜まり、そこから2条の竹管によって分水され、各々の屋敷内の溜井戸に通水される施設（竹管1）の2条が検出された。今回の調査によって、両水道遺構とも2軒の屋敷境にほぼ同じ位置に設置されていたのが確認された。すなわち古い竹管の破棄後、取り外さずに竹管の蓋板上に設置されていたことが明らかにされた。

②出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、陶磁器片を中心に整理用コンテナ（テンバコ）で2箱であった。木製品は、ゴミ穴の残存が良好でなかったこともあり出土量は少ない。金属製品は、銭貨、釘の出土がみられた。

陶磁器等：1～2面では、攪乱の影響もあり、遺物の出土は少なかったが、19世紀末とみられる近代陶磁器片等の遺物が若干みられた。3面からは、染付の椀・鉢、灰釉香炉など18世紀後半に属するとみられる遺物が出土している。4面の遺物量は少ない。京焼小片の他、染付の皿など、17世紀末～18世紀初頭に属するとみられる。5面では、ゴミ穴（1土）から多くの陶磁器片が出土している。瀬戸・美濃の灰釉の丸碗、丸皿の他、肥前の染付、青磁、また唐津焼の皿もみられ、他に志野丸皿、灯明皿として用いられた志野織部の丸皿などが出土している。いずれも17世紀初頭に属するとみられ、これらの多くは被熱を受けていることから、この時期本町に火災があったことが窺われる。

6面では、建物址の東側の4土から多くの陶磁器片が出土している。前述したとおり、この4土は建物の内側にあたるが、火災の際に焼けた不要財を投棄したゴミ穴で、出土した遺物は土師質土器の灯明皿、内耳鍋片など在地産焼き物の他、志野の向付・丸皿、初期伊万里の皿といったものもみられる。この面での出土遺物の時期は16世紀末に相当し、本町が成立した時期のものといえる。7面からは陶磁器の出土は少ない。

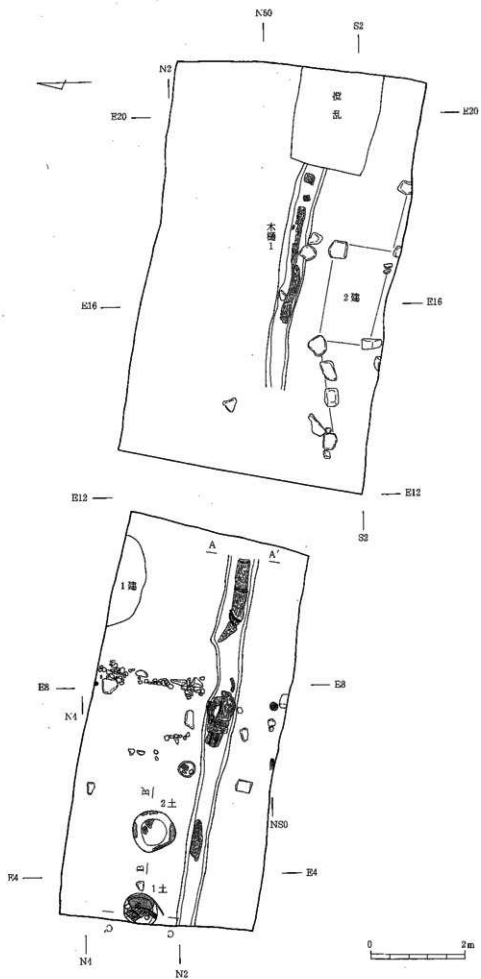
木製品等：各面とも、ゴミ穴が良好な状態で残存するものが少なかったことなどから、出土量は極めて少なく、製品としては栓がみられた程度で、その他にはいわゆる木端が若干みられたにとどまる。

石製品：石製品は極めて少なく、6面から、2建基礎のグリ石に転用された石臼片が1点出土したのみである。

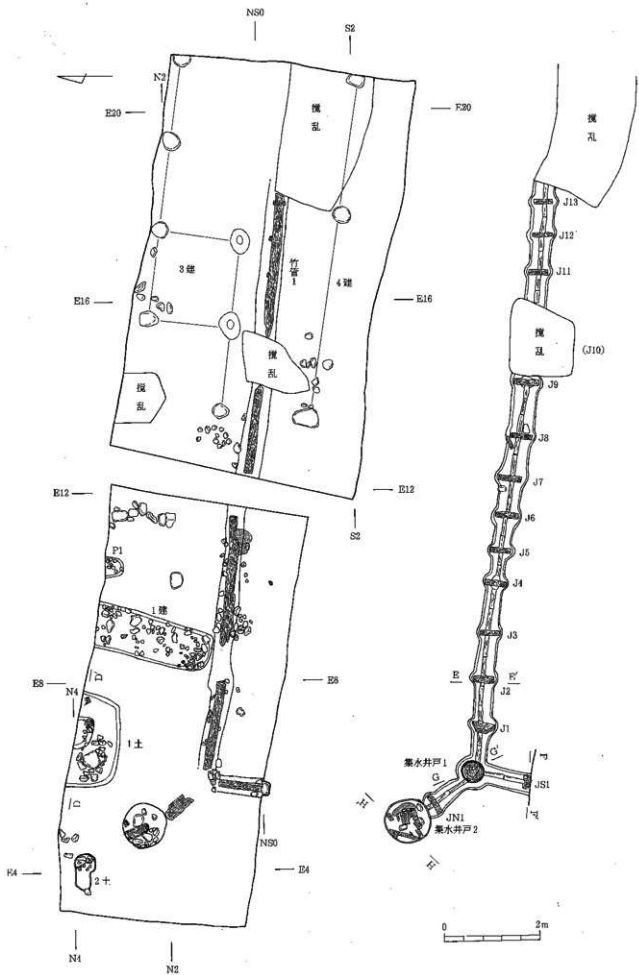
金属製品：鉄釘、銭貨がみられる。鉄釘については、いずれも和釘であり、各面から出土がみられる。銭貨については、寛永通寶の出土はなく、渡来銭である熙寧元寶（初鋳1068：北宋）が5面から1点、6面から1点、元豐通寶（1078：北宋）が6面から1点、天禧通寶（1017：北宋）が7面から1点の計4点出土した。いずれも5面以前の面からの出土であり、混入品或いは下層のものについては幕府による寛永通寶の初鋳（1636）以前であるとみられる。

（3）まとめ

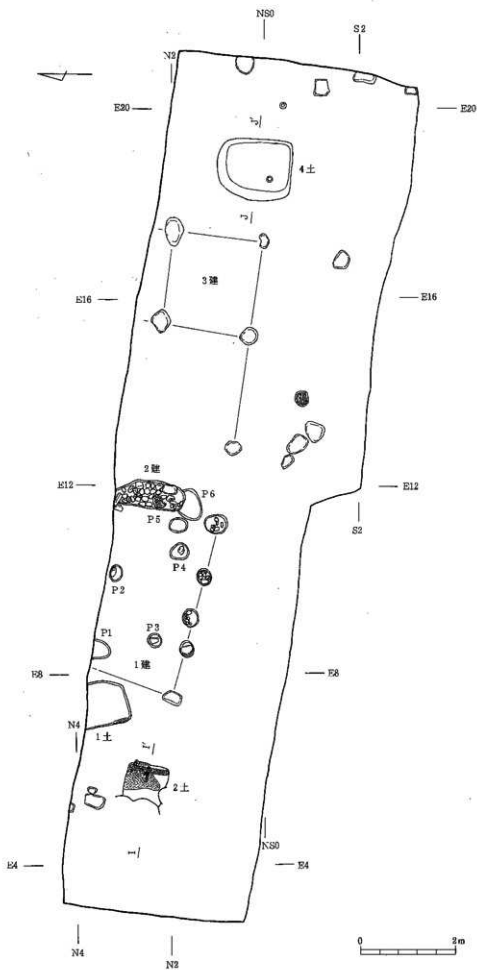
今回の調査地は、近世本町2丁目の商家跡地にあたる。上面は昭和40年に行なわれた再開発の際に失われているものの、3面以下では比較的遺構の残存状態は良好である。本町1次調査時において、16世紀後半から末にかけて町割りの変化が確認されているが、今回の調査では深度を大きくとることができないため、それを確認することはできなかった。6面の遺物が、中世～近世といった過渡期のものであったことを考えると、7面以下において確認できる可能性はあったとみられる。遺物は、ゴミ穴が少ないため量は多くないが、志野、伊万里焼の食器類といった比較的高級な陶磁器が出土している。水道施設は3・5検出面で2時期のものを確認することができた。これらの施設も、攪乱によって所々は破損を受けているが、前述したようにその構造については、水道の保護が厳重になされていることが見て取れた。いずれにせよ、近代に至るまで城下町の生活用水が辻井戸（本町、中町などの通りに敷設された本管水道から引かれた共同井戸）であったことを考えると内井戸（本管から取水し、敷地内に自家用の水道を敷設して利用する集水井戸）持ちの富裕階級の屋敷地とみられる。



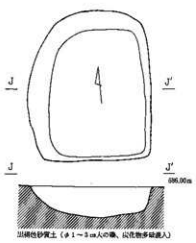
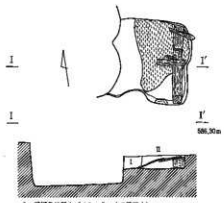
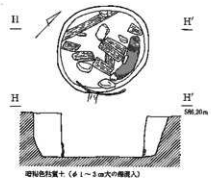
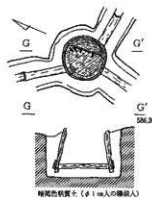
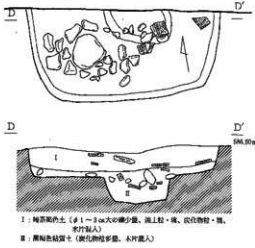
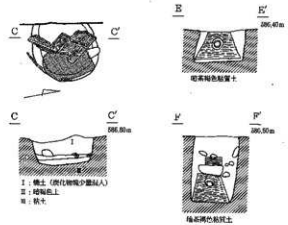
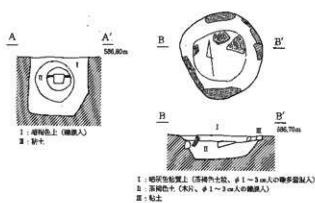
第3図 3検出面遺構配置図



第4図 5 検出面遺構配置図 第5図 水道遺構 (竹管)

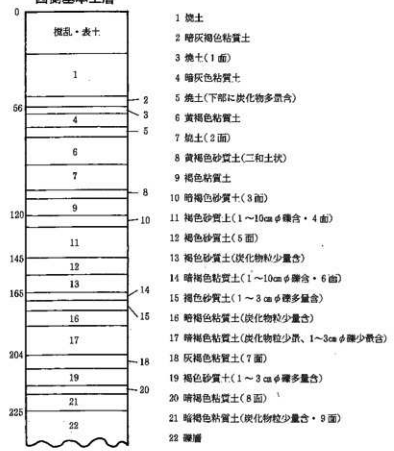


第6図 6検出面遺構配置図



第7図 遺構断面図

西側基本土層



第8図 基本土層



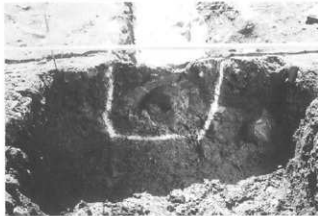
調査開始前（車から 本町裏手の土蔵がみえる）



第2検出面全景（東から 攪乱を受けている）



第3検出面全景（東から 木樋が出土している）



木樋断面



第5検出面全景（東から 竹管が出土している）



第6検出面全景（東から）



竹管集水井戸1（東から）



井戸枠展開（丸い穴は竹管を通すためのもの）

図版1 本町5次遺構（西半部）



第3検出面（北から 木樋がろえる）



木樋出土状況（東から）



第4検出面（東から）



第4検出面第3号建物址（南から）



第5検出面（東から 竹管出土）



竹管の構造（ handsで支え、上板で保護されている）

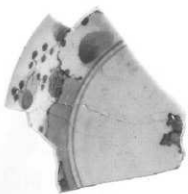


第5検出面第3号（左）、第4号（右）建物址（東から）



第6検出面全景（東から 奥は第3号建物址）

図版2 本町5次遺構（東半部）



肥前系染付皿



唐津皿



志野向付



志野織部丸皿、灯明皿に転用



志野丸皿



志野丸皿



灰釉丸皿

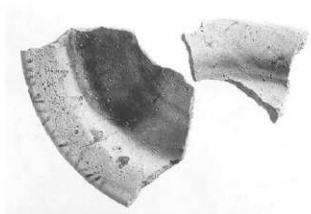


灰釉丸皿

図版3 本町5次出土遺物(1) 第5検出面陶磁器



初期伊万里磁皿



志野向付



志野丸皿



志野丸皿



志野花入



土師質灯明皿



出土渡來銭 (1・2: 熙寧元寶、3: 元豐通寶、4: 天禧通寶)



出土鉄製品(釘)

図版4 本町5次出土遺物(2) 第6検出面陶磁器・金属製品

松本城下町跡 本町5次 伊勢町19・21・22次 中町1・2次 宮村町1次試掘調査報告書抄録

ふりがな	まつもとじょうかまちあと ほんまち いせまち なかまち みやむらまち							
書名	松本城下町跡 本町5次 伊勢町19・21・22次 中町1・2次 宮村町1次試掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	No.149							
編著者名	澤柳秀利							
編集機関	松本市教育委員会（松本市立考古博物館）							
所在地	〒390-0873 長野県松本市丸の内3番7号（松本市大字中山3738番地1 Tel.0263-86-4710）							
発行年月日	平成12（2000）年3月17日（平成11年度）							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
まつもとじょうかまちあと 松本城下町跡 ほんまち 本町5次	長野県松本市	市町村	遺跡番号	36° 13' 48"	137° 58' 20"	H11.7/28 ～ 8/13	574.2 (95.7 ×6面)	中央西 区画整理
		種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
	城下町	中世 ～ 近世	建物址 17棟 土坑 11基 ピット 13個 石組遺構 2ヶ所 水道遺構 2条	陶磁器：伊万里、唐津、 瀬戸・美濃系、京 都系など 金属製品：銭貨、釘 木製品：栓 石製品：石臼		近世松本城下町の商家地の調査。屋敷境で木樋、竹管の上水道施設2条を同位置で検出、共用水道（辻井戸）ではなく個人用水道（内井戸）を有する富裕階層の屋敷跡。遺物も比較的高級な陶磁器が多い。		

松本市文化財調査報告 No.149
松本城下町跡
本町5次 伊勢町19・21・22次
中町1・2次 宮村町1次
 一平成10・11年度試掘調査報告書一
 発行日 平成12年3月17日
 発行者 松本市教育委員会
 〒390-9620 長野県松本市丸の内3番7号
 印刷 株式会社ブラルト